

令和6年度第3回 国立大学法人奈良国立大学機構経営協議会記録

日 時 令和6年9月24日（火）13時00分～14時47分
場 所 奈良国立大学機構第一会議室
出席者 榊理事長、宮下大学総括理事、高田大学総括理事、榎本理事、西村理事、
國枝委員、松本洋一郎委員、村岡委員
欠席者 松本伸之委員、森川委員、大石委員
列席者 青山監事、沓澤事務局次長
(機構事務部)
向総務課長、寺本企画課長、川村人事課長、幸田財務課長、奥施設課長
(奈良教育大学事務部)
矢倉総務課長、河上企画・財務課長
議 長 榊理事長

議事に先立ち、令和6年度第2回経営協議会（令和6年6月25日）記録を確認。
9月1日付けで監事に就任した青山監事から挨拶があった。

審議事項

1. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書案について

榎本理事から、資料1により説明があり、審議の結果、原案のとおり承認し、役員会へ付議することとした。

榎本理事から、原則4-1に関して、法人情報の公表に対する対応状況の説明についてはさらに工夫して記載すべき余地があるとともに、補充原則4-2②の内部統制については監事からの言及もあり、引き続き実効性を担保して進めていきたいとの意見があった。

2. その他

特になし

報告事項

1. 奈良教育大学及び奈良女子大学における今後の戦略について

宮下理事から、資料2-1により奈良教育大学における今後の戦略について、高田理事から、資料2-2により奈良女子大学における今後の戦略について、榎本理事から、資料2-3により両大学の科研費の申請・応募状況について、それぞれ報告があった。

國枝委員から、奈良教育大学の説明にある科学館構想については、科学館設立を見据えた理数教育センターと位置付けることで他機関における同種のセンターとの差別化が図れるのではないか、また、奈良女子大学で文系の研究分野をまとめようとする方向性は評価できるもので、特に古代学のリソースを科学館に結び付けることができれば、奈良に科学館を置くことの重要性や発信力が増してくるため、両大学の人材を活かして協力して取り組んでほしい、との意見があった。また、奈良女子大学は工学系大学院を整備していくに当たり、学問としてのコアになる部分はどこか、どういう特徴を持った卒業生を輩出するかという方針が十分には見えず、奈良女子大学としての構想を明確に発信していく必要がある、との意見があった。

松本洋一郎委員から、研究戦略についてはトップダウンだけではなく、両大学の研究リソースをデータベースにより可視化して、それを基に議論することでボトムアップによるアイデアを生むことも重要ではないか、また、こども園については、他機関の先行例も参考として学問として作り込みながら、ユニークな発信をどれだけ行うことができるかが重要ではないか、さらに、奈良女子大学の工学部については単に技術を持ったエ

ンジニアではなく、生活者目線から課題を認識して追究するエンジニアを育てるというコンセプトが生活環境学部を土壌としてできた奈良女子大学工学部の特徴として良いのではないか、女性技術者ネットワーク形成については日本工学アカデミーのような既存組織をうまく活用できればよい、との意見があった。

村岡委員から、他大学で工学部が増えつつあり、また大規模大学の工学部において女性枠を設ける等の状況の中で、いま奈良女子大学工学部が目指している方向性と、世の中が要請するモノづくりに対する価値観とのバランスが今後重要となってくるのではないか、また、奈良教育大学については奈良県における教員養成を支える大学として、いったん社会に出た教員が最新の教育に触れる機会として大学院課程で学び直すといったことの仕組みも必要ではないか、との意見があった。

2. 令和7年度概算要求及び施設整備費の事業評価結果について

榎本理事から、資料3-1～3-2により報告があった。

3. 令和5事業年度財務諸表の承認について

榎本理事から、資料4により報告があった。

4. 令和5年度における第4期中期計画及び評価指標の確認・検証について

榎本理事から、資料5-1～5-2により報告があった。

5. 奈良教育大学附属小学校における教育課程の状況報告について

宮下理事から、奈良教育大学附属小学校における教育課程の事案について、適切に対応し、おおむね順調に取組が進捗している旨、報告があった。

6. 経営協議会の日程について

榎本理事から、資料6により報告があった。

7. その他

特になし

次回は、10月30日（水）13：00～15：00に開催することとして散会。

以 上